

## 「健全経営」に、 これからも努めます

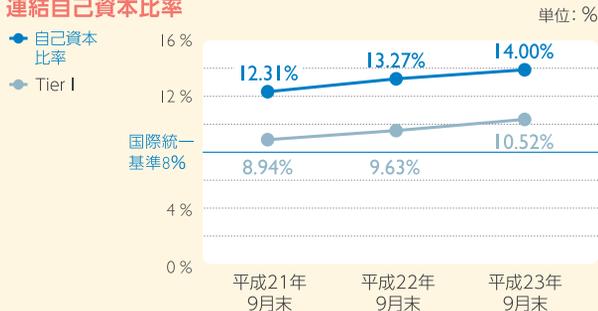
### 自己資本比率も国際統一基準8%を大きくクリア

#### 自己資本比率

自己資本比率は、銀行の安全性、健全性を図る指標のひとつです。しがぎんのように海外に営業拠点を持つ銀行は、国際統一基準8%以上でなければなりません。

しがぎんの自己資本比率は14.00%（平成23年9月末、連結ベース）と国際統一基準を大きくクリアしています。

#### 連結自己資本比率



#### 自己資本比率

用語説明

銀行の安全性、健全性を判断する基準のひとつに、自己資本比率があります。銀行の自己資本が、予想外の損失に対する備えとして十分であるかどうかを示す指標です。海外支店を持つ銀行は、国際統一基準行として8%以上の自己資本比率を求められています。

#### 国際統一基準による自己資本比率

##### Tier I

資本金・資本剰余金・利益剰余金などの基本的項目

+

##### Tier II

有価証券含み益の45%相当額など補完的項目

×100 ≥ 8.0%

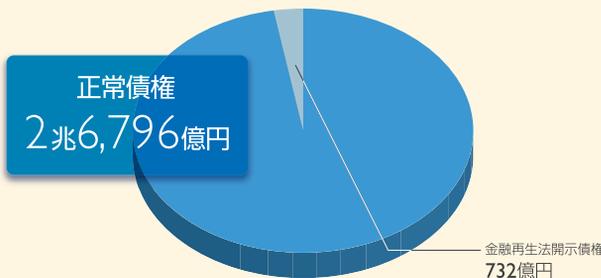
#### リスクアセット

リスクの度合いに応じて調整した総資産の金額

## 不良債権は、 引き続き低位に推移

### 不良債権の状況

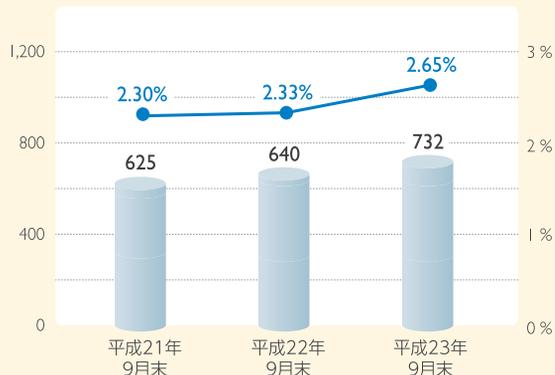
しがぎんの金融再生法に基づく開示債権の合計は732億円、総与信に占める不良債権比率は2.65%となりました。また、貸倒引当金や担保などによる保全率は81.55%です。



### 金融再生法開示債権

単位：億円

● 対総与信残高比率  
単位：%



#### 不良債権比率

用語説明

貸出金等の総与信残高に占める不良債権の割合です。不良債権比率が低いほど、資産の質は高くなります。銀行ごとにその資産総額の規模が異なることから、この比率が銀行の健全性をみる指標の一つになります。

# お知らせします、しがぎんの業績

## 業績ハイライト

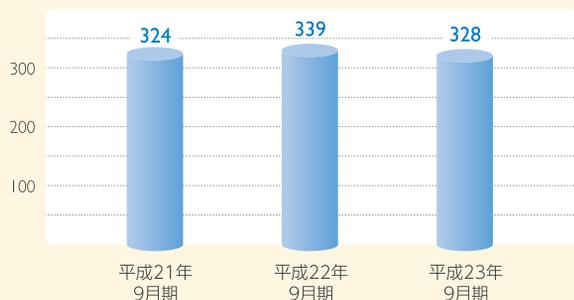
業務粗利益は、投資信託など販売手数料が増加しましたが、債券関係損益が減少したことなどにより、前期比10億円の減益となりました。

しかしながら今期は、与信コストや預金等利息の減少、株式関係損益が改善したこと、また、経費の削減に努めたことなどにより、業務純益、経常利益、中間純利益とも前年同期比で大幅な増益となりました。

### 業務粗利益

銀行本来の業務（貸出業務、為替業務、有価証券運用など）から得た利益です。

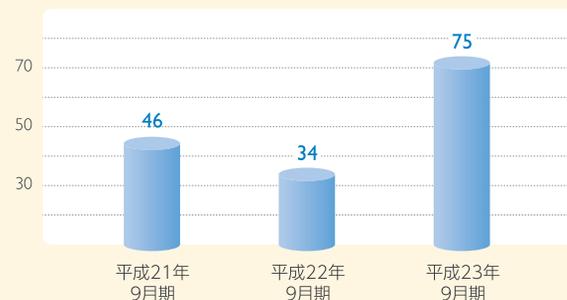
単位：億円



### 経常利益

業務純益から株式の売却損益や不良債権処理に関わる費用などをプラス・マイナスした利益です。

単位：億円



### 業務純益

一般企業という営業利益にあたります。  

$$\text{業務純益} = \text{業務粗利益} - \text{経費（人件費、物件費、税金）} - \text{一般貸倒引当金繰入額}$$

単位：億円



### 中間(当期)純利益

経常利益から法人税や事業税を差し引いた最終的な当期の利益です。

単位：億円

